

Heartful Day

北条高校人権委員会
平成25年12月11日
No. 76

手話を知っていますか

私たち人権委員と生徒会役員は、松山盲学校・松山聾学校との交流学習会を行ないます。先月は、点字のことを知ってもらいました。今月は、手話について一緒に勉強しましょう。

世界で最初に手話が誕生したのは、1760年に、ミシェル・ド・レペがフランス・パリに最初の聾啞教育施設を創設し手話での教育を始めたことが最初とされ、アメリカではレペの弟子から手話法を学び帰国したギャローデットによって広められました。

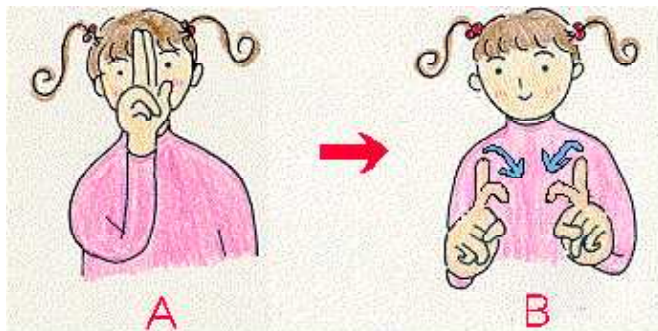
欧米と比べ日本における手話の歴史は浅く、本格的な手話の成立は1878年(明治11年)古河太四郎が京都で日本で始めての聾学校、「京都訓聾啞院」を設立し、そこで日本手話の原形というべき言語が生まれました。古河氏は、生徒たちの間で使われていた様々なホームサイン(耳の聞こえない方が、家庭でコミュニケーションをとるために、自然に使っていた簡単な身振りのこと)に着目し、その手話から次第に聾学校の教師や生徒の間で統一した「手話」を形成していったのです。

しかし、聴覚障がい者同士の交流が始まるにつれ、相手の手話がわからず会話ができないという問題が起きました。そこで、1969(昭和44年)、全日本ろうあ連盟が編集発行した「わたしたちの手話」をもとに、全国に標準手話が制定されるようになりました。

現在、手話は大きく分けて、「日本手話」と「日本語対応手話」の2つがあります。日本手話とは、日本語と異なる独自の体系をもつ言語で、聾啞者同士の交流から生まれました。「日本語対応手話」とは、日本語の文章に手話の単語を当てはめていく手法で、音声言語のまま手話表現するものです。私たちが手話講習会で学習しているのも日本語対応手話です。

手話を覚えよう

こんにちは



- A : 人差し指と中指を立てて、額の前に持って行きます。(これで「お昼」という意味になります。)
- B : 次に、両手をグーにして、人差し指を立て、すぐ曲げます。これで、「こんにちは」という表現になります。

聴覚障がいについて知ろう

聴覚障がい者といっても、「全く聞こえない人」「小さな音が聞こえない人」など一概に障害の程度はさまざまです。また、生まれつき聞こえない人、病気やケガで聞こえなくなった人、年をとるにつれて聞こえにくくなった人など、聞こえなくなった時期、聞こえの状態によっても様々です。

また、聴覚障がい者は、見ただけでは分からないので、話しかけられても聞こえないため、無視していると思われたり、様々な誤解を受けたりする事があります。

私たちにできること

手話を知らなくても、聴覚障がい者は、相手の口の動きを読み取る事ができる人もたくさんいます。話すときは、口の動きが分かるように正面からはっきり話しましょう。また、筆談をする時は、読みやすい文字で出来るだけ漢字と句読点を入れ、あいまいな文章はやめてはっきりと（いつ・どこで・だれが・なにを・どうするか）書きましょう。道を歩く時は、クラクションの音が聞こえないので、車道側を聞こえるあなたが歩いて下さい。困っている人がいたら、「何かお手伝いしましょうか?」と声をかけてみましょう。

次回の放送は、1月15日(水)の予定です。お楽しみに…

お願い

今日の放送を聞いて生徒の皆さんの感想や、この資料をご家庭に持ち帰ってご家族の方と話し合ったこと、ご感想などをお寄せください。

提出は、ホームルーム担任まで

----- 切り取り線 -----

第7回ハートフルデー

()年次 生徒 or 保護者